

こうたの文化財

やまおかてっしゅうまきごうむつくりがっこうへんがく
山岡鉄舟揮毫「六栗学校」扁額

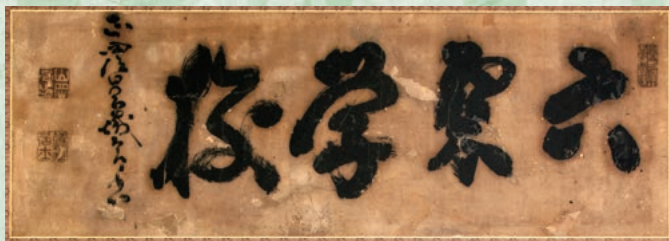
六栗学校は、明治5年(1873)の学制発布に際し、当時の額田県幡豆郡長であった志賀本家嘉代三郎氏が教育の必要を痛感し、私邸を補習改装、運営の費用など私費を投じての尽力により、旧六栗陣屋で明治5年8月15日に「六栗郷学校」として開校した。学区は、六栗・須美・野場・萩・芦谷など十ヶ村であった。

その後、各地に支校・分校ができ、明治9年「六栗学校」と改称し明治25年には学区も六栗・上六栗となり、場所も旧陣屋から六栗八幡宮内に移転、明治42年(1909)現豊坂小学校に校舎が出来るまで存続した。扁額「六栗学校」は、左に正四位・山岡鐵太郎の落款があり明治15年以降の揮毫である。

(幸田町文化財保護委員会委員)

*山岡鉄舟(1836-88)

慶応4年(1868)鳥羽・伏見の戦いの後、幕臣として勝海舟と西郷隆盛との会談を実現し、江戸無血開城に尽くす。勝海舟・高橋泥舟とともに「幕末三舟」と称されている。



某月某日

わんぱくだより

豊坂保育園

「夏野菜を育てよう」

豊坂保育園は、自然豊かな場所であり、園庭内でもシロツメクサの冠を作ったり、テントウムシを見つけたりと自然に触れながら遊んでいます。

園の畑では毎年いろいろな野菜を作り、収穫を楽しんでいます。今年はどうな夏野菜を植えようかと、子どもたちと相談しました。「スイカがいい。スイカ割りしたい」「塩もみ



キュウリ食べたい」と、スイカ、キュウリ、トマト、カボチャなど食べたものを植えることになりました。

まずは土作りです。花壇だけでは足りないので、プランターにも土を入れたり、花壇と花壇の間にも土を運んだりして、畑を増やしました。スコップ、バケツを使って工夫しながら土を運ぶ子どもたちでした。

苗を植える時には、「これ何の苗?」と観察したり「葉っぱがチクチクしてる」と触ってみたり。「私ピーマン好きだよ」「オクラも好き」と、収穫に期待が膨らみ、会話が盛り上がりました。

毎日張り切って水やりをしている子どもたち。みんなで世話した採れたて野菜は最高です。旬の野菜からパワーをもらい、元気に遊べそうです。